

できないことが悔しいので、
できるまでやりたい。

巻頭特集

インタビュー

(プロ野球選手)

前田 健太
さん

プロフィール

1988年大阪府生まれ。広島東洋カープに、ドラフト1位で2007年に入団。
気迫あふれるピッチングでチームをけん引する絶対的エース。
2010年には史上最年少、球団史上初の投手三冠のタイトルを獲得し、
投手として最高の成績を残した選手だけが受賞できる沢村賞も獲得した。
2013年には第3回WBCの日本代表としても活躍し、
大会公式ベストナインにも選出されている。

プロ野球選手

前田 健太さん

巻頭特集 インタビュー

小学校時代からスポーツ大好き

——どんな小学校時代でしたか？

小学校は楽しかったですね。体育の時間は特に楽しかったです。ソフトボールの授業とかはちょっとだけヒーローになれるのですごく嬉しかったです。野球だけじゃなくて、サッカーとか、

スポーツ全般がすごく好きでしたね。勉強の方は普通だったかな。成績は、特に悪かったというわけではないですよ。国語とか算数も好きでしたね。

できるまで、とことんやる！

——プロ野球選手になりたいと意識し始めたのはいつごろからですか？

小学校で野球を始めて、そのときからプロ野球選手になりたいってずっと思っていましたね。そのために週5日練習して、さらに水泳と器械体操も習っていたので週7日スポーツの習い事をしていましたけど、それを苦と思ったことはなかったです。水泳以外は（笑）。でも水泳も体作りのためになつていたので、今は、やっていてよかったなって思っています。

プロ野球選手になるのをあきらめようと思ったことは一度もないし、野球をやめようと思ったことも一度もありません。もちろん、楽しくない時期やうまくいかない時期っていうのはありました。自分が思い描くプレーができないっていうか、成績がうまく残せないときっていうのはいっぱいあったんですけど。そういうときはもう練習する



写真提供：中国新聞社

——ひたむきに努力する姿勢は小学校のころから変わっていないですか？

そうですね。負けず嫌いなんですよ。できないことが悔しいので、できるまでやりたい。小学校のころ、一輪車にはまったことがあったんですけど、やってみたら最初乗れなくて。悔しくて、休み時間が始まるたびに一人で一輪車を取りに行つて、ずーっと乗れるまで練習していましたね（笑）。あと、鉄棒も技ができるまでずーっと。そう

写真提供：中国新聞社



写真提供：中国新聞社

小学校は雰囲気づくりが大事！

やって、プロになった今でも負けず嫌いは変わらない。そのおかげで、苦手の運動とか、動きとかがないから、いろいろなことに挑戦してきてよかったなと思います。

今はゴルフに挑戦しています。オフシーズンに選手たちとゴルフをする機会があるので。最初はもう全然だめだったけど、楽しみながら、うまくなりたいですね。

思い出に残っている小学校の先生はいらっしゃいますか？

僕が好きだった先生がクラスのみんなを名前で呼んでいたんですよ。名字じゃなくて下の名前で。それがなん

か嬉しかったというか。先生がみんなを下の名前で呼んでいるから、僕らもお互いを下の名前で呼ぶようになって。今まであんまり仲よくなかったり、何て呼んでいいか分からなかったりして名字で呼んでいた友達も名前で呼ぶようになって、結構仲のいいクラスになったっていう記憶があります。あとは先生があだ名をつけて呼ぶとか。そんな雰囲気づくりのおかげでクラスがいい感じになっていったような気がします。

小学校って基本的には全部の授業を担当の先生が教えているから、担任の先生で楽しくなるかどうか左右されていた気がします。先生が、僕たちが飽きないように授業にゲームとかを取り入れて、率先して盛り上げてくれたのを覚えています。あとは、軟式野球の試合で優勝して、それが小さく新聞に載ったときに、先生が喜んでくれて、その記事を貼り出してくれたこともありましたね。

現在、小学校では前田選手と同じ世代の先生たちが増えていきます。どんな先生になってほしいですか。

子どもたちには全てのことを楽しんでほしいなって思うんですけど、でも



写真提供：中国新聞社

子どもたちのあこがれになれるように

やったら楽しいんじゃないかな、ってことをやってくれると、子どもって単純なんで楽しめると思う。周りの環境ってすごく大事だと思いますね。

最後に、子どもたちへメッセージをお願いします。

僕も子どものころは、イチロー選手とか松坂大輔選手とかを見て、あんな選手になりたいって思っていました。今の子どもたちにも、前田健太みたいになりたいって思ってもらえるように、優勝に向かって頑張りたいと思います。一人でも多くの子どもが野球に興味をもってくれると嬉しいです。

